高岡短期大学紀要　第17巻　平成14年３月
Bull. Takaoka National College, Vol.17, March 2002

# ジョークの中の人間模様
# The Way People are in English Jokes

中　野　清　治

## はじめに

英語学習の過程で、英語のジョークの一つや二つに出会わなかった人は、まずいないであろう。はじめて接したときは、ジョークだと言われても何がおかしいのか分からず、ただ戸惑うばかりであった。しかし、苦闘した末に自力で、あるいはタネを明かされ理解できたとき、大げさに言えば、未知の世界を覗きこんだような気持ちであった。確かにそこは新しい世界なのである。それにしても英語のジョークは、一筋縄ではいかないものが多い。どう頭を捻ってもわからないものがある。ところがある日忽然と理解できるという経験をすることもある。自国のジョークでは味わえない、刺激的・知的な喜びがある。多様なジョークに触れるにつれ、その可笑しみとともに人事百般の真実を抉る鋭い眼光とその表現の工夫に脱帽するようになる。

本稿では英語のジョークを理解し楽しむのに役立つと思える若干のヒントを述べてみたい。大まかに翻訳が可能なものと不可能なものに二大別する。

## １　翻訳が可能なもの

### １.１様々な人間像

人は誰でもでその人の属する社会において一定の地位や立場を有する。夫・妻、医者・弁護士、教師・学生等のように。そして異なった地位や立場にある人には、それに特有のイメージがついてまわる。そのイメージは文化によって異なり、とくにジョークにおいてはそれがほぼ固定化されている。そのステレオタイプを理解していないとジョークの理解に困難を感じることがある。最初に一番身近な夫婦を取り上げることにしよう。

⑴Your husband must be absolutely quiet. Here is a sleeping draught.
When do I give it to him?
You don't, you take it yourself.

医者が絶対安静を必要とする夫に睡眠薬を処方してくれたのに、なぜ妻がそれを飲まなければならないのか、と頭をひねる向きが多いと思うが、つじつまの合わないところにこそ謎解きの鍵がある。医者は妻が（というより、女性一般が）おしゃべりであることを先刻承知しているので、そのおしゃべりを封じる手段だったのだとわかるのである。

⑵Can you tell by your husband's face if he's lying?
Yes. If his lips are moving, he is.

奥さん同志の井戸端会議でのやりとりと思われるが、ジョークの中では夫は嘘つきだと相場は決まっている。

⑶Here's the Mona Lisa.
Aw, come on! That dame's smile reminds me of my wife's when she thinks I'm lying.
（aw「おや《抗議・不快・疑念・などを表す》」,come on「よせやい、何てことを」）

この二種類の人種が出会うとどうなるか。つぎの⑷が示している。

⑷For twenty years, my wife and I were very happy.
What happened then?

We met.

生まれてから20年間の独身時代は良かった。二人が出会ったのが運のつきだった。

⑸My uncle was finally put to rest last week.

We didn't know he had passed away.

He didn't, but my aunt did.

「僕の叔父もやっと安らぎを得たよ」(restは「死の眠り」の意)と言われれば、その叔父さんが亡くなったと誰しも思う。３行目で文脈の逸脱あるいは肩すかしを食わせてみせることによっておかしみを出している。

以上のようなジョークをみてくると、一体幸福なカップルはいるのだろうかと危ぶむかもしれないが、心配はいらない。ジョークの世界では答はちゃんと準備してある。

(6a)A deaf husband and a blind wife are always a happpy couple.

なぜかというと、

(6b)Last week a grain of sand got into my wife's eye and she had to go to the doctor. It cost me eight dollars.

That's nothing. Last week a fur coat got in my wife's eye and it cost me eight hundred dollars.

(6c)The only chance I get to open my mouth around my wife is when I yawn.

ジョークにおけるgynephobia(女性恐怖)は相当なもので次のような例によっても窺い知ることができる。

(7a)So your wife eloped with your best friend? Who was he?

I don't know. I never met the fellow.

(7b)Not all men are fools; some are bachelors. [Comic Dic.]

(7c)“Home, Sweet Home” must surely have been written by a bachelor. [S. Butler]

以上見てきたとおり、ジョークにおける夫、妻、夫婦の型はほぼ決まっており、この点をおさえておくことが謎解きの鍵である。本稿末の［補注１］も参照してもらいたい。

姑は、当然、ジョークのbuttになる。

⑻A mule had kicked the farmer's mother-in-law in the head and she died. A huge crowd from miles around showed up at the funeral.

“Your mother-in-law must have been a wonderful person for so many people to come to her funeral,” said the minister.

“Oh, they're not here for the funeral,” said the farmer. “They came here to ask to borrow the mule.”

以下、様々な職業・立場の人々を登場させてみる。

⑼I hear your husband tried to get a government job. What's he doing now?

Nothing.

Oh, didn't he get the job?

Yes, he did.

古き良き時代の公務員を揶揄っている。不況の世の中では羨望の職をジョークのネタにして溜飲をさげるしかない。

⑽My uncle had an accident with his car. It was a terrible accident but he had a good doctor. The doctor told him he would have him walking in a month.

And did he?

Yes. When the doctor sent his bill, my uncle had to sell his car.

医者は約束どおり叔父さんを歩けるようにしてやった。

⑾New patient : I'm always forgetting things. What should I do?

Psychiatrist : Pay me in advance.

Psychiatristとは「精神科医」のこと。物忘れのひどい患者に支払いを忘れられてはたまらない。後述する医者の中でもとりわけ歯科医がbuttになっているジョークが多い。

⑿(Two lawyers were talking about business.)

How are you making out?

Lousy. Business is so bad. I followed an

ambulance for twelve miles and when it got to the hospital I found a lawyer already in it.

（Lousy＝bad, make out＝「（うまく）やっていく」、ambulance＝「救急車」）

訴訟社会アメリカにおけるclient獲得のための弁護士同士の熾烈な戦いを垣間見る思いがする。先を越して救急車に乗り込んでいた弁護士も、その後を追いかけた弁護士も、もちろん、加害者への損害賠償請求訴訟を、搬送されて行く負傷者にけしかけるためだった。

⑬Professor : You can't sleep in my class.

Student : I could if you didn't talk so loud.

仕掛けは法助動詞canの意味にある。学生は教授が用いたcan（許可）を自分の土俵に引き込み自分に都合よい意味（可能）で、しかも仮定法を使ってやんわりと切り返した。

上にみたとおり、いわゆる社会的な地位が高いと思われている人を笑いの種にするのはジョークの常套手段である。

学生と勉学はジョークではどう扱われているのか。

⑭Professor, I can't go to class today.

Why?

I don't feel well.

Where don't you feel well?

In class.

⑮Three college seniors were wondering what to do on a Sunday evening. “ I've got an idea, ” said one. “ Let's toss a coin. If it's heads, we'll go to the sophomore dance and look for girls; if it's tails, we'll go out drinking. And if it stands on edge... we'll study. ”

（heads（副）〔投げたコインの）表が出て」（←→tails））

⑯Prof : Gentlemen, I am dismissing you ten minutes early today. Please go out quietly so as not to wake the other classes.

授業中に居眠りをしている学生の姿を見慣れていると、absent-minded professorはどうしてもこういう発言になる。それとも教授は学生への当てつけなのか。いずれにしてもジョークは成立する。

⑰But I don't think I deserve an absolute zero.

Neither do I, but it is the lowest mark that I am allowed to give.

先生はこの学生の成績はマイナス点が相当と思っていることを暗示している。学生はマイナスの点数をつけられることは絶対にないので、安心しておれる。

⑱The more we study, the more we know.

The more we know, the more we forget.

The more we forget, the less we know.

The less we know, the less we forget.

The less we forget, the more we know.

So why study?

初めのthe（＝to what extent）は関係副詞、後のthe（＝to that extent）は指示副詞で、「the比較級...,the比較級～」の形で使われる慣用表現である。

国民や人種をbuttにしたジョークでは、イングランド人の視点から作られたスコットランド人とアイルランド人に関するものが双璧をなす。Ethnic jokesは人種的偏見を伴う惧れがあるので注意が必要である。以下の一連のジョークからスコットランド人のどのような国民性が窺われるだろうか。失礼を顧みずスコットランド人が槍玉にされたものを採録したのは、同国人にその覚悟ができているからである（例：22）。

⑲What started the Grand Canyon?

A Scotchman lost a penny in a ditch.

⑳Did you hear about Sandy finding a box of corn plaster?

No, did he?

Yes--so he went and bought a pair of tight shoes.

㉑Seeing two Scotsman bathing on the beach, a wealthy Englishman offered five pounds

to the one who could stay longest under water. They are still searching for the bodies.

(22)Do you Scotchmen mind all the stories that are told about you?

Of course we do.

Why?

Because they are all told at our expense.

辞書にはScotchmanに「《俗》けちな［つましい］人」という訳語を当ててあるとおり、ジョークに出てくるスコットランド人をそのような意味合いで読んでいけば謎解きができることがある。(22)at our expense「自分たちの費用で」と「自分たちの犠牲において＝迷惑をこうむって、馬鹿にされて」の二つの意味がこめられている。この可笑しみの仕掛けは後述の「イディオム読み」と「文字通り読み」の二重読みにある。

次はアイルランド人の例。

(23)Paddy : Give me a return ticket, please.

Ticket clerk : Where to?

Paddy : Back here, of course.

(24)An Irishman was driving along the motorway when he heard an announcement on his radio :

“ Warning : a crazy man is driving his car the wrong way down the motorway. ”

“ One man? ” said Paddy. “ Everyone's doing it! ”

(25)Would you sooner lose your life or money?

Why, my life, of course. I'll need money for my old age.

アイルランド人はstupid personとして相場がきまっている。彼らにまつわるジョークはIrish Bullと呼ばれるとんちんかんなものが多い。「追伸：この手紙不着のばあいはすぐにご連絡ください」式のものである。

### １.２英語の諺の知識

(26)(To a sick man)Cheer up, my good man--you'll pull through.

It isn't that, doctor--but just think of all the money I've spent for apples to keep you away.

上のジョークは次の諺を知らなければ、全く意味をなさないだろう。

(27)An apple a day keeps the doctor away.

リンゴは健康に良い食品で、「一日一個のリンゴを食えば医者はいらない」というこの諺はジョークばかりでなく、“ Knock, knock ”や“ Limerick ”といった戯詩などにも登場する。各一例を挙げる。

(28)A young doctor and a young dentist shared the service of a receptionist and both fell in love with her. The dentist was called away on business, so he sent for the receptionist and said : “ I'm going to be away for ten days. You will find a little present in your room. ” She went in and found 10 apples.

(29)Knock, knock

Who's there?

Minneapolis.

Minneapolis who?

Minneapolis each day keep many doctors away.

(30)There once was a fellow named Roderick Gray,

Who ate apples all night and ate apples all day.

He is now in a hospital,

That's what they say,

And a doctor a day keeps the apple away.

(Limerick)

### １.３言外の意図

文には言語的な意味と状況的［文化的］意味があること、また文字面の裏には隠された発話者の意図があるを読み取ることができなければ、ジョークの理解は困難となる。

(31)A：Well, John, did you give the Judge my note?
B：Yes, but there isn't any use writing to that man.
A：Why do you say that, John?
B：'Cause he's blind--blind as a bat. Do you know he asked me twice where my hat was--and all the time it was on my head.

日本語に訳すことには何の問題もないが、表面上の意味だけではジョークにならない。問題は前提となっている文化をよく知らないこと、また疑問文の持つ特殊な機能を理解していないことの二つの要因が挙げられる。

年上の人や地位の高い人の前で（あるいは法廷で）は、帽子を脱ぐことが礼儀であり慣習になっているという文化がある（cf. “ hat in hand ” 帽子を手にして；かしこまって；うやうやしく）。そのような文化を理解していたならば、判事の発した質問は「この場で帽子をかぶっているのは不適切ではないか」と男をたしなめているのであり、「帽子を脱いだらどうか」というメッセージを伝えているのだと理解できたはずだ。

“ Where is your hat? ” ⇨ “ Do you think you are allowed to wear your hat here? ”
⇨ “ Why don't you take off your hat? ”

自分の愚かさ加減を棚にあげ、裁判官の言外の意図を読み取らずにかえってこけにしている男のおめでたさが、このジョークのおかしみである。

言語学に語用論という部門があり、発話文とそのコンテクスト（社会・文化的背景、発話時の状況等）との関係を研究する分野であるが、このジョークは恰好の資料を提供してくれる。「帽子はどこにあるの」という発話文（疑問文）は、偉い人の前では脱帽するというコンテクストに支えられて、「帽子を脱いではどうか」（提案）あるいは「帽子を脱ぎなさい」（命令）という機能をおびてくることがあることを示している。一般論としていえば、ある表現Ｘに関して “ What do you mean by X ? ” と問うてみる。すると相手の発話の意図がみえてくる。［補注２］

疑問文の機能を理解した上で、次のジョークを見てもらいたい。面白さはどこにあるのだろうか。

(32)Don't you hate people who answer a question with another?
Who doesn't?

「ほかの人と一緒に答える人って嫌いじゃない？」と尋ねているわけではない。

(a)「質問に対して質問で答える人って嫌いじゃない？」と問うているのである。それに対する返答は(b)「嫌いでない人なんているもんですか」というのだが、(a)(b)の日本語をつなげてもジョークにはならない。２行目を “ Who doesn't? ” ではなく、実質的に同じ意味の “ There is no one who doesn't hate. ” で置き換えても、ジョークにはならない。では、このジョークの面白さは何か。“ question ” は「質問文」とも「疑問文」とも取れることを利用して、応答者は「（修辞的）疑問文で答える」ことによって質問者から一本とって涼しい顔をしていることにある。［補注３］

ところで、ここで用いられているanotherは “ an additional, one more ” の意味であるが、よく間違われることがあるので、一例を挙げる。

(33)If I am a fool, you are another.

これをゆめゆめ「僕がばかなら、君は別だ」と訳してはならない。なおここで用いられている＜If－節＞の和訳に伴う意味上のふしぎな現象については［補注４］を参照。

(34)Go right down the hall, turn to the left and you'll see a sign that says : Gentlemen. Don't pay any attention to the sign--go right on in.

トイレの在りかを訪ねている人に対して行き先を教えている人のことばである。このジョークを日本語に翻訳するのであれば、トイ

レの標示が「紳士」となっているのでない限り、ジョークとして成立しない。このジョークの意味がわからず思いあぐねた人が、女性に手洗所を教えている場面ではないか、と妙案を出した。Desperateな女性を想像させ面白くないことはないが、やはりここは男性に対して答えているところ、としなければならないだろう。その方がワサビの利きが鋭い。要するに、「お前さんは紳士ではないが...」と言っているのである。今まで何気なく紳士服店に足を運んでいた男達も、こういうジョークに接した後は、目を伏せながら紳士服店を素早く通り過ぎmen's shopとかmens-wear departmentへ足を向けることになる。

## 2 翻訳不可能なジョーク

英語のイディオムや多義語を含んだもの、だじゃれ(pun)や多義構文を用いたものはまず翻訳は不可能である。下ではいくつかに分類してあるが、ambiguity(両義性)という上位概念でひとくくりにすることも可能である。

### 2.1 多義語

ほとんどすべての単語は多義性を備えている。そうでなければこの世に辞書は必要ではない。多義語とは厳密にいえば同綴同音異義語(homonym)のことで辞書の記載では区別して扱われるが、ここでは一つの形態でいくつかの意味をもった多義語をもふくめて例を挙げる。必然的にだじゃれを使ったジョークということになる。

㉟Does your husband lie awake at night?
Yes, and he lies in his sleep, too

質問者は純粋な気持ちで質問をしたのだが、自分の言葉の中にうっかり“husband”と“lie”を共起させたために、相手を乗せてしまった。

㊱Why can't I park here?
Read that sign.
I did. It says, “Fine for parking,” so I parked.

質問者は“Fine for parking,”を「駐車結構」と解したが、「駐車罰金」が標識の意味するところであった。

㊲What part of the car causes the most accidents?
The nut that holds the wheel.
(“nut”は「(ボルトを締める)ナット;馬鹿」,“wheel”は「車輪;ハンドル」)

㊳Physician says one million women are overweight. These, of course, are round figures.
(round「端数のない;丸々と太った」, figure「数字;姿、体つき」)

### 2.2イディオム

イディオムを含むジョークはその「イディオム読み」と「文字通り読み」の、いわば二重読みの間の食い違いからおかしさが生じる。これもambiguityの部類に入るだろう。

㊴Man : Where in hell have I seen you before?
Bishop : I don't know. What part of hell are you from?

“in hell”を男の方は「いったい」の意で用い、司教の方は故意に文字通りの「地獄で」の意味にとって強烈に皮肉っている。

㊵Did you have a good time at the dentist's?
I was bored to tears.

“be bored to tears”のイディオム読みは「ほとほと退屈する」文字通り読みは「涙が出るほど穴をあけられる」

㊶Why does time fly so fast?
Because so many people are trying to kill it.

“kill time”は「時間をつぶす」

単語と同じくイディオムも多義のものは翻訳は不可能である。

㊷I'm afraid the mountain air would disagree with me.
My dear, it wouldn't dare.
(“disagree with”「<風土・食物が>...

（の体質）に合わない;意見を異にする」）

### ２.３だじゃれ(Pun)

⑷③Why is a mouse like hay?

Because the cat'll eat it.

鼠が干し草に似ているのは両方とも食べられてしまうという点で似ている。一方は猫によって、他方は牛によって。cat'll［kætl］をcat willとcattleの両様に読ませているのである。Punを用いたこのような謎はどの言語にもあるようだが、母語話者以外の者にとってはきわめて難解に思えるものである。とくに視覚言語として英語を学ぶ傾向の強い日本人にとってこの種のジョークは苦手である。類例は枚挙にいとまがないが、もう一つだけ挙げておこう。

⑷④Why should a lost traveler never starve on the deserts?

Because of the sand which is there.

次にpunを用いた１行ジョーク（one-liner）の傑作というべきものを紹介しよう。

⑷⑤Bald head--it's like heaven; there is no dying or parting there.

dyingを「染めること（＝dyeing）；死ぬこと」の二様に、partingを「（髪を）分けること；別れること」の二様に解すれば、それぞれ禿頭と天国にあてはめることができる。

### ２.４多義構文

いわゆるparsing（文の品詞や文法的関係を説明すること）が二通りに可能であるため二つ以上の解釈ができる文を多義構文（amphibology）という。

⑷⑥Call me a taxi!

Okay--you're a taxi.

「タクシーを呼んでくれ」＜SVOO＞を、「タクシーと呼んでくれ」＜SVOC＞というふうに、故意に曲解して茶化したもの。

⑷⑦Why is a goose like an icicle?

Both grow down.

２行目がhomonymをふくむambiguityで、grow downはガチョウであれば「羽毛が生える」ことになるし、つららであれば「下にのびる」ことになる。downは前者の場合は名詞としての、後者の場合は副詞としての働きをしている。

⑷⑧How can you make a slow horse fast?

Don't feed it.

「のろい馬をどうしたら速くできるか」「餌をやらないことだ」ではおかしい。餌をやらなければ、ますますのろくなるではないか。おかしいと思ったらどこかに仕掛けがあるはずだ。１行目は＜SVOC＞だが、fastを形容詞と捉えるのではなく、「絶食する、断食する」という意味の動詞の原形不定詞と解すれば、２行目と整合する。もちろん、応答者は故意に曲げて解釈し、質問者をけむに巻いている。

⑷⑨Are you fond of tongue, sir?

I was always fond of tongue, madam, and I like it still.

tongue「舌（肉）、口、おしゃべり」I like it stillを＜SVO＞と＜SVOC＞の両用に。

次は多義構文ではないが、コンマひとつが、文の意味を大きく変える力をもつことがあることの例として採録した。芝居が仮にハッピーエンドだったとしても、評論家はへぼ芝居が終わってほっとしたことをコンマで示唆している。その名のとおりcritical（批判的）である。

⑸⓪“The play ended, happily,” recently wrote a local critic. What a difference a comma can make!

同音異議語、地口、多義構文を揃えた次のようなものは超難関の部類に属するといえる。

⑸①Why does a dog wear more clothes in summer than in winter?

Because in winter he wears a coat, but in summer he wears a coat, and pants too.

コートもパンツも着用すれば人間の感覚からすれば確かに暑苦しい。(coatは「獣の外皮」のこと。)pantsは二様に解釈する。一つは名詞でwearsの目的語と解する。(その場合、１行目の質問にまともに答えたことになる。)仮に犬はパンツなどはかないと抗議する向きにはpantsはwearsと並列的に用いられている動詞として働いており(犬は汗腺を持たず、あえぐようにして舌で発汗作用を行う)、英語としては完全な文になっているとしか答えようがない。これは言葉の遊びなのである。

## おわりに

ジョークを読みすぎると人が悪くなるのではないか、と惧れる人がいるかもしれない。なにしろ、人を小馬鹿にした冷笑的なものが多いので、消極的な影響を心配するのも当然である。しかし、それは杞憂であろう。ジョークの笑いやユーモアには積極的な目的あるいは心理的機能がある。人間のすべての行動を動機づける普遍的原理として、心理学者アドラーは劣等コンプレックスを提起した。人はこの劣等感を何とかして隠したいと思う。これを克服するために、何かの分野で他人に抜きんでたい。どうすればいいか。他人を侮辱し、見下し、その弱点を攻撃して優越感にひたることである。優越感はまさに快楽であり、人間が求めてやまないのは実はこの快(喜びや愉快な楽しい気分)なのである。

しかし、攻撃は社会でタブーとされている。そこで、社会的に容認されるような攻撃の表現方法が生み出された。スポーツ、ユーモア、文芸・社会評論、風刺漫画等である。プラトンは攻撃と笑いの関係を早くから指摘していた。すなわち、人は他人の中に弱点を見つけたときに笑うものであり、笑いはその弱点に対する、また間接的にはその本人に対する攻撃である、と彼はいう。人はみな不快な劣等感から逃れ、他人を攻撃材料にしてでも優越感を得たいと願う。それは快だからである。世上おびただしい数のジョークが出回っていることは、攻撃の背後には劣等感があるというアドラーの説の一面の真理を証ししているといえるかもしれない。

### [補注１]

(1)When a neighbor at the funeral asked a boy what his father's last words were, he replied : " He didn't have any. Mom was with him to the end. "

葬式に参列していた近所の人が、男の子の父親の臨終の言葉(last words)についてたずねたところ、「父ちゃんは何も言えなかったの。母ちゃんが最期までつき添っていたんだもん」というわけである。The last word(s)(因にこの表現は「相手に次のことばをいわせないような(議論に決着をつける)決定的なことば」という意味である)をネタにしたジョークは多いが、いくつか参考までに供するので試してもらいたい。下にヒントを一括して示しておく。

(2)My wife always has the last word.
You're lucky. Mine never gets to it.

(3)When a married couple have words, the wife always has the last word.

(4)Husbands rarely get in the last word because women usually outlive men.

(5)The only time a man has the last word with a woman is when he apologizes.

(6)Any husband can have the last word--provided he hangs up fast.

(7)When one woman argues with another, who gets the last word?

［ヒント］(2)「とどめを刺すのはいつも家内だ」「そりゃいい方だ。うちのなんぞ、とめどがない」 (3)夫婦が口論をしたら、黙ってしまうのは決まって亭主の方 (4)女の方がたいていは長生きするから... (5)女性に二の句を継げないようにする唯一の手は、「オレが悪かった」 (6)奥さんに二の句を継げさ

せない手は、奥さんよりも先に受話器をサッとかける［電話を切る］こと。（具体例：「今日は帰りが遅くなるから」と言うやいなや電話を切る。）このあたり、夫の側の涙ぐましい窮状打破の努力が哀れを誘う。 (7)女同士の議論では、どちらがとどめを刺すのか。（女性に一矢報いるために男の側が考え出したジョーク？）

**［補注２］**

疑問文は、情報を得るため、また答を知るために発する質問だと一般に受け止められている。そのこと自体に間違いはないが、疑問文にはもっと多くの機能(function)がある。

(a)Must you play harmonica in the living room?［苦情・いら立ち］
(b)Can you pass me the salt?［頼み］
(c)Why don't you wear glasses?［提案］
(d)Shall I do that for you?［申し出］
(e)How many times do I have to tell you?［脅し］
(f)Hi, how are you today?［挨拶］
(g)Is everything OK?［気遣い］
(h)May I introduce myself? My name is Bob.［紹介］
(i)Arn't you ashamed of yourself?［非難］
(j)Can I close the window?［許可を求める］

仮に(b)に対して“Yes, I can.”と答えたままで塩を手渡してやらないとか、(e)に対して“A hundred times.”などと返答をしたら、相手がにやりとしてジョークのつもりで言っているのだなと、寛容な理解を示してくれない限り、穏やかならざる雰囲気になってしまうだろう。

**［補注３］**

逆にいわゆるyes-no questionに対して、必ずyesかnoで答えなければならないというわけでもない。

Do you like hamburgers and French fries?
(a)I certainly do like hamburgers and French fries.
(b)It's the only food I can afford.
(c)Show me someone who doesn't.
(d)Buy me some any time.
(e)Doesn't everyone?
(f)Do you like rice and fish?
(g)Yes, I do.
(h)Sure.

質問に対して陳述(a, b)、命令(c, d)、質問(e, f)、依存表現(g, h)など様々な形式で応答することが可能である。

**［補注４］**

本文(33)は「僕がばかなら、君だってばかだ（ということになる）」の意。

＜If－節＞は、文脈によっては、意味論上不思議な働きをする。以下、その例をみる。

(1)“If the police stop us,” she said, “you're an old friend and my name's Joyce.”

文字どおりの意味ではおかしいと感じとれば、われわれはその状況にふさわしい意味を語用論的に見いだそうと努力する。上の文は「もし警察に呼び止められたら、あなたは古くからの友達で、私の名前はジョイスだということにしましょう」となる。

つき合っている男の子から大人の関係を迫られ、どうしていいか分からない高１の女の子が新聞の人生相談欄に投書した。回答者は次のような返事を載せた。

(2)What a wise and honest girl you rare. If you have to ask, you're definitely not ready(to have sex).［parenthesis mine］

後半の部分は「人に訊ねなければならないということは、つまりあなたにその準備ができていないということです」（あなたに準備ができていれば、他人の意見なんか求めないでしょう。）

次は28歳の男性の投書。独身を保っていることで周囲の人たちからとかく白い目で見られがち。「いつ結婚するつもりか」「もっと外へ出て色々な人とつき合ったらどうか」果て

は「あなたはゲイか」などと質問攻めにされることを嘆いた後につづく文。

(3)And if this isn't enough, I am viewed with suspicion if I'm too attentive to a married woman.

「それでも不十分というのでしたら、既婚女性に対して親切過ぎはしないかと疑いの目で見られていることもつけ加えておきます」

以上の例に見られるような＜if－節＞の用例は英和辞典にはほとんど載っていない。辞書に用例が載せられていないということは、文脈が与えられて初めて下線部のような補完的意味が生じてくるということなのだろう。

日本語にも文脈が意味を支える同様の現象がある。次の(a)(b)において、

(4)(a)君が月なら、ぼくはスッポンだ。

(b)君がうなぎなら、ぼくはどじょうだ。

(a)の後半部を「～のようなものだ」あるいは「～ということになる」とすんなりと言い換えることができるのは、意味を補完する場（例文では、“比較”という暗黙の文脈）が前提にあるからである。(b)にもそのような解釈は不可能ではないが、一般性がない。

上記(1)～(3)は翻訳が引き金になって浮かび上がってきた問題であるが、このような補完的な意味が生じるメカニズムや用例をもっと精細に調べる必要がある。

## 引用・参考文献


1．Copeland, J. & F.（1965）*10,000 Jokes, Toasts &Stories.* Doubleday & Company.

2．藤井基精（1982）「実例英語のなぞなぞ」南雲堂.

3．郡司利男（1982）「英語ユーモア講座」創元社.

4．郡司利男（1984）「ことば遊び12講」大修館.

5．Marquez, E. J. & Bowen, J. D.（1983）*English Usage.* Newbury House Publishers.

6．Meiers, M. & Knapp, J.（1980）*5600 Jokes for All Occasions.* Avenel Books.

7．奥田隆一（1999）「英語観察学－英語学の楽しみ」鷹書房弓プレス.

8．鈴木進・岩田道子・L. G. パーキンズ（1993）「アメリカン・ユーモア」丸善.

9．鈴木進・岩田道子・L. G. パーキンズ（1995）「英語ユーモア学」丸善.

10. 須沼吉太郎（1993）「ユーモラス・イングリッシュ」秀英書房.

11. Ziv, Avner（1984）*Personality and Sense of Humor.* Springer Pub. Co.
（邦訳）高下保幸訳（1995）「ユーモアの心理学」大修館.